

全国高校選手権

サッカーの全国高校選手権第3日は2日、NACKE5スタジアム大宮などで2回戦16試合があり、徳島市立は1-1から

らのPK戦で聖和学園院、滝川一(兵庫)、鹿志(福島)、滝川二は大部分をそれと下した。鹿兒島城西はPK戦で長崎総合科学大付を退けた。全国高校総体覇者の市舶橋(千葉)は0-0からPK戦で前橋育英(群馬)に屈した。3回戦は田、富山第一、山梨学院、富山第一(兵庫)、鹿兒島城西などが3回戦へ勝ち上がった。東福岡は22度目の出場で初優勝を狙う青森山田は駒橋(千葉)に5-0で完勝。富山第一は那覇西(沖縄)、山梨学院は尚

▽△回戦
聖和学園 100
宮城 111 1 徳島市立
(PK4-2)
▽得勝者【聖】大八木【徳】郡
【評】徳島市立は2試合連続となったPK戦の末に敗れた。3人目の上野、4人目の橋本が連続

▽交代【聖】西堀（鈴木智）小原（鈴木雅）【徳】小原（水田）岡（小延）吉田翔（原田）

左サイドを山本史がドリブルで突破し、ゴール前へパス。郡が右足を振り抜き、ダイレクトで左隅に決めて同点とした。その後も素早い攻守の切り替えから、何度も相手ゴールに迫ったものの、追加点が奪えなかった。

徳島市立・山本史弥（後半にアシスト）「同点にした後、さらに1点を取って引き離したかった。悔しい」



徳島市立は攻撃に積極性を欠いた。後半25分、MF郡がFW山本のパスをダイレクトで決めて1点をもち取ったが、PK戦の末に敗退。「前線の人数が多い時に、もっとチャレンジしてゴールを狙うことが必要だった」と、河野監督は得点不足を敗因に挙げた。

前半、中央をドリブルで突破してくる相手に対し、上野、橋本の両CBから守備陣が体を寄せて何とか無失点でしのいだ。

後半に入って、徐々に徳島市立がリズムをつかみ始めた矢先、DF陣がパス交換でミス。自陣の深い位置で相手にパスを送る形になり、一気にゴール前に切り込まれた。最後はこぼれ球を押し込めて0-1。上野は「嫌な時間帯で失点してしまったのが悔しい」と唇をかんだ。

先制点を奪われた後、攻撃陣は意地を見せた。FW山本史との連係でMF郡が2戦連続のゴールを決めて同点。しかし、その後はパスで相手ゴール前に迫りながらも決定機はつくれず、シユートも計6本にとどまった。

「守備陣が1点で耐えてくれた。だからこそ、チャンスでもう1点をしっかりと決めないといけなかった」と郡は追加点を奪えなかったことを悔やむ。PKK佐野主将は「詰めの甘さが出た。PKも試合中も相手の技術が上だった」と力負けを認め、後輩に雪辱を託した。

(藤畠慶祐)